

連載1



最近のKAIR

(神山アーティスト・イン・レジデンス)

「山中カメラ現代音頭集

Shall we BON-Dance」届きました！

2009年に神山アーティスト・イン・レジデンスにて招聘アーティストとして滞在制作した山中カメラさん。滞在中は住民の皆さんとの対話を重ねた中でカメラさんが感じた神山の散りばめられた歌詞に、音源として地元の三味線グループや、広野小学校の金管バンド、当時の



写真：小西啓三

参加アーティスト、町の人々の掛け声が入ったとっても素敵な出来上がりです。滞在最後に開催した「秋の大ボンダンス大会」には150人の方々にお集まりいただき、星空の下でみんなで踊りました。この度、この10年間に全国各地で作ってきたボンダンス11曲の収録されたCDブック「山中カメラ現代音頭集 Shall we BON-Dance」が完成し、2月27日発売予定！

現在、ネット上で予約受付中です！

一山の碧さが目にしみる ここは徳島 神山の里♪
一度聞いたら心に響く「神山スダチ音頭」を是非聞いてみてください。
<https://www.in-kamiyama.jp/art/kair/artist/camera-yamanaka/>



連載2



ほんのひろば

●お知らせ：三浦太郎さんの絵本『ぞうちんぐのいやいや』、『おうさまのこどもたち』、『はたらくくるま よいしょ』の3冊が入りました！そのうち2冊には、かわいいイラストと共にサインが入っています。どうぞごらんください。貸し出しもできます。

●貸出と返却：1階の事務所でを行っています。貸出期間は1カ月。台帳に、お名前と電話番号、借りたい本の名前を書いてください。期限までに更新にきていただくと、貸出期間をもう1カ月延長できます。

●書架スペース：本を読みながらゆっくり過ごせるよう、ソファを用意しています。また、夏はゴザ、冬はコタツを設置しています。どなたでもどうぞご自由にお過ごしください。

●神山町農村環境改善センター1階

【開館時間】8:30～17:30 ほぼ年中無休(年末年始のみお休み)

<http://honnohiroba.strikingly.com/>



連載3

最近の改善センター教室



写真：生津勝隆

神山の足元を、みんなで楽しむ

徳島県薬草協会神山町支部(妙見尹志会長、会員約80名)は、「神山の足元をみんなで楽しめる活動」を続けています。山歩きや薬草園などを巡る年二回の県外研修をはじめ、季節に合わせて梅エキスや杜仲茶、柚味噌を会員の皆さんで作っています。2月の恒例行事といえば「七草粥と新年の集い」。一般来場者には、会員の皆さんが持ち寄りの食材で作った七草粥と郷土料理が振る舞われました。「だんだんと高齢化しているけど、(移住者などの)新しい人がようけ入ってくれて、神山のことを学ぼうとしてくれている」ことが嬉しい、と事務局の西田聖子さんは語ってくれました。



連載4

グリーンバレーメンバーリレー



本誌2回目の登場！神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス(KVSOC)担当の砂田莉紗(すなだりさ)です。オープンから7周年を迎えた今年のコンプレックスでは、未来の可能性を広げるために実験中！

第一弾は「オープンデー」。まだ不定期ですが、無料で一日利用できる日を始めました。薪ストーブであったりながら読書するもよし、いつもと違う場所で仕事に集中するもよし、時には誰かと話が弾むかも！ぜひ気軽にお越しください。

今回のオープンデーは、3月19日(木)9:00～17:00(予定)です！

(KVSOCのFacebookで情報発信中！みてね！)

3月は毎週月曜日12:00～13:00に、農家のスパイシー

カレースープ「月曜日のくま」開催中！食べにきてね！



神山のサポートについて

グリーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。私達の活動趣旨にご賛同いただき、暖かいご支援をぜひお願いいたします。詳しくは以下のページをご覧ください。

<https://www.in-kamiyama.jp/donation-to-greenvalley>

発行/お問い合わせ

認定特定非営利活動法人グリーンバレー

<https://www.in-kamiya.jp/>

MAIL: greenvalley@in-kamiyama.jp

〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132

TEL: 088-676-1178



認定NPO法人「グリーンバレー」の源流を巡る(1)

～ 新年座談会 ～

今現場で活躍するグリーンバレーのメンバーとその活動を支援し続ける、

グリーンバレー創業メンバー4名が繰り広げる「グリーンバレー今昔+これから」をお届けします。



認定NPO法人 「グリーンバレー」の源流を巡る(1)

新年座談会@作良家(さらや)

メンバー (五十音順): 岩丸潔(理事)、大南信也(前理事長、現理事)、佐藤英雄(理事)、森昌規(理事)

モデレーター: 竹内和啓(事務局長) 写真:生津勝隆



写真左端から時計回りに、森、佐藤、大南、岩丸

「認定特定非営利活動法人グリーンバレー(以下グリーンバレー)」は、「神山町国際交流協会(1992年設立)」を前身とする認定NPO法人で2004年に設立された。「日本の田舎をステキに変える!」をミッションに徳島県神山町で各事業を展開する。神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)、Bed & Studioプログラム(アーティストの滞在支援)、サテライトオフィス誘致事業、アドプト・ア・ハイウェイ神山(清掃活動をベースとしたまち美化プログラム)、神山町移住交流支援センター受託運営、コワーキングスペース「KVSOC 神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス」や「神山町農村環境改善センター」の指定管理、森づくりなど、神山が神山であるための事業を運営し、新規事業を開発中。(活動詳細は次号)

グリーンバレーの主なできごと

1991年	青い目の人形「アリス里帰り」(推進委員会)
1992年	町民主導の「神山国際交流協会」設立
1993年	ALT受け入れプログラム「神山ウィークエンド」開始
1997年	徳島県が「とくしま国際文化村構想」を発表
1998年	「神山国際交流協会」の提案「国際芸術家村づくり構想」が採用される「アドプト・プログラム」開始
1999年	神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)開始
2004年	「NPO法人グリーンバレー」設立(「神山町国際交流協会」が前身)
2007年	神山町公施設指定管理事業受託開始
2008年	総務省モデル構築事業でwebサイト「イン神山」オープン 有償で宿舎やアトリエの貸し出し「Bed & Studioプログラム」開始 移住支援センター業務、「ワーク・イン・レジデンス」(寄井・上角商店街再生事業)開始
2013年	「神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス」オープン (2020年2月末時点)



神山の国際交流マインドは、青い目の人形「アリスの里帰り」から急に広まったというより、子どもたちの未来を町全体が思い、外国の皆さんの受け入れを快く継続していくことで、ごく自然に、かつ、深く、町民の皆さんの生活に根差したようだ。

はじめは「子どもたちのため」

「アリス人形の里帰りの前、神山のまちや、皆さんってどんな感じだったんですか?」

大南さんがスタンフォード大学から帰国した後1980年頃から、英会話を忘れないため(笑)に幼馴染の佐藤さんや岩丸さんたちに英語を教えることにした。英語教室の対象は、現在の「アドプト・ア・ハイウェイ神山」活動の前身「鮎喰川クリーン作戦」を行っていた神山町商工会青年部やPTAの親御さんたちに拡大する。有志でアメリカやシンガポールに海外旅行にも行った。1987年、徳島県青年団連合会会員の紹介で、ウィーン国立音楽大学の学生が神山にホームステイにやってきた。このホームステイを受け入れたことが神山の国際交流のきっかけとなる。その後民泊も始まり、シンガポールやASEAN各国、ドイツからのホームステイ希望団体を町中で受け入れるように。町中の親御さんが、小学生のわが子の将来の糧になると信じてホームステイ生の受け入れに快く協力したのだという。この経験から、外国人があちこちで滞在していることが町民にとって普通のことのように感じられるようになっていく。1993年から13年続いたALT(外国語指導助手)受け入れプログラム「神山ウィークエンド」では、毎夏期間中の最終日にフェアウェルパーティが開催され、県下のALT新任教師約40人を含めた教師60人余り、家族含めて総勢140~160人が、楽器

を演奏したり、歌ったり、踊ったり、町内全域の町民と一緒に楽しむことがすっかり定着していった。

佐藤: 神山の人はなんでも、「ホームステイ? おもしろそうやな、かんまんよ」って(反応してくれた)フットワークが軽かったよな。

森: 民泊も含めて信ちゃん(大南さん)がうまいことみんなを誘ったんやろ(笑)

岩丸: 子どもたちがだいたい小学生くらいやったんで、みな、子どもが将来英語ができるようになったらええなあ、子どものためやったらな、いうて、受け入れてくれたな。

佐藤: そのころは後で13年も毎年ALTの先生を泊めることになるうとは思わなだけでな!(笑)

大南: 県としても「そういう(外国人受け入れ等の)話は神山にもっていったら受けてくれる」ってなったな。次々に話がきて、次々に受け入れるようになったよな。

岩丸: 画期的なことやったな、今から思ったら。(受け入れる外国人の)年代幅は広いし、世界各国から来るし、集まったら歌って踊って楽器鳴らして楽しんできたな。

大南: その頃、スポットでやってくる外国人もあって、ちょっと面白そうな人が来たら、外国人だけでなく日本人でもコットンフィールド(森さんの運営するキャンプ場)に集まって、BBQしながら話きいたりするようになったな。

創られたのではなく、町から生まれたNPO法人「グリーンバレー」

令和2年目の第1号は、次号と合わせて「認定NPO法人グリーンバレーまとも号」です。今号では、まずグリーンバレーのミッションの「源流」を紐解くべく、グリーンバレーの現場メンバーとその活動を、昔と変わらない熱量で支援し続けるグリーンバレー創業メンバーが繰り広げる「グリーンバレー今昔+これから」をお届けします。神山での地域活動を生み出し、実行し、継続し、陰となり日向となって進化させている仲間たちの本音や裏話を共有しながら、皆さまと一緒に、神山のこれからについて想いを馳せてみたいと思います。創られたのではないとすると…

KAIR、自分たちでできるな!

「芸術のことまったくわからないのに、アーティスト・イン・レジデンスは自分たちでやるうって決めたのは勇気がありますよね!」

1993年、森さんが自身のキャンプ場「コットンフィールド」を神山温泉の隣にオープン。「芸術家村」を神山につくらんか?と提案するが、当時具体的な方策は特になく、すぐにカタチにはできなかった。1998年、神山町国際交流協会として提案した「芸術家村」案が徳島県の「とくしま国際文化村構想」に採用される。同時期に大南さんが提案した「アドプト・ア・ハイウェイ神山」構想とを合わせ、環境と芸術の2本柱を神山で推進することになり、1999年から神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)が始まる。

森: 明石海峡大橋が架かったら神山も関西の軽井沢みたいになって、大学生とか、芸術家のやってくるのを見たい人がいっぱい来るやろうな、と思ったな。
大南: 県と一緒に淡路島にAIRの視察に行った時、神山ではもう国際交流も民泊もやってたから、「自分らでできるな!」って、帰りの車の中で決まったな(笑)

岩丸: わからんなりに(笑)とにかく自分らのオリジナルのカタチを考えて創って、やっていこうっちゅうんやったな。

「できない理由より、できる方法を!」強みを生かして「とにかく始めろ!(Just do it!)」という、グリーンバレーウェイが染みついていく創立メンバーだ。

できることをまず自分たちでやってみる「壮大なる実験」は続く

「常に新しいこと、未知のことをやっているのは今も全く変わらないのですが、皆さんのモチベーションってなんなのでしょう?」



幸せに「なる」のか。幸せを「感じる」のか。感じるかどうかは自分次第。(大南)

大南: 変化の向こうをのぞいてみたい「好奇心」やな!自分らの力で、自分らの中で起こりよるけん、次はなにが起こるんやろという「興味」がエンジンになっとなよな。

森: 現場を見てみたい。自分たちで変化を起こせる。その変化の向こうをのぞいてみたいんよな。

岩丸: 不思議と20年間ずっとなんか新しいことが起こるんよな。

大南: 新しいことが起こるんが染みついてくるけん、またか、て感じて、障害にならんんよな。だから無理もしない。

「向き合い方」ってある

「そういうモチベーションや、価値観が、メンバー全員でいつも自然と共有されていますよね。」

森: KAIRの運営を皆で考えて「我々のやりたい方法でやる、それでだめになるならKAIRを始めた意味もないし、やる必要もない」って結論に至ったんよな。自分たちのKAIRだから、自分たちが興味のある作家を選んで、地域で住民みんなと交流してもらうことが最初からの目的やった。作家を選ぶ方法も、小学校をアトリエにするということも交流ということが原点にある。それだけは絶対に譲れない。それが続いた理由でもあると思う。

大南: 「向き合い方」を意識しているんやな。客観情勢とか、エゴ、名声とかをまぜてアーティストを見るんじゃなく。素人だからこそ、人としてちゃんと見ようとしたんよな。

これって正しいことか?アーティストに対して失礼じゃないか?アーティストがもうちょっと気持ちよくできるには?という風に、まっすぐ向き合いたい。

岩丸: 言葉がわからなくても、正面から向き合おうっちゅう気持ちが強いからな。相手に対する興味が強くて、相手を解ろう、解ろうとしとったな。

佐藤: (KAIRの)第1回目なんて英語しゃべれるん、信ちゃんだけ(笑)僕らはお酒呑みながら、食事しながら、心で通じとったな...通じてたと思うよ!

森: はやな、とにかく関わったりたい。そばにおりたいていう気持ちやな。いったん決めたことは、どんな障害があっても、あらゆる知恵と工夫をもって取り組むという気持ちでやるのが、一番の分かれ道やな。



新しい風とこれから

佐藤: 今はAIRでツアーとかやったら、1/3以上が英語が解るから、英語きいてすぐにリアクションしてる(笑)まちづくりの面も、若いつなぐ公社さんの人たちが一生懸命やってくれていて、すごくうまいって。ソフト面、文化面、よそから来た人がどんどことんどこしてくれて。

竹内さん(以下 竹内): 2018年に開いた「世界の料理教室」来場者のうち30人くらいは外国人でびっくりしましたよな。

佐藤: うんうん、進化しよるな。新しく入って来た人とたちがどんどん参加して。自然にええカタチになってきとんよな。

岩丸: 「後継者問題」とか、真剣にコトバにせん方がいいな!(笑)

大南: (これから誰がやるかとか)意識せずに、結果乗り越えていくもんちゃうかな。例えば、山の向こう側に行く時、登らんでもいいやん。

「山じゃ!」とか、「川じゃ!」とか言わず、山の横からでもすり抜けてみたら、ちゃんと向こう側に行ったことになるけどな(笑)。「山越え」は結果として同じやろ。超楽観論(笑)

竹内: そうやって、かるやかに乗り越えていくカルチャーを残していきたいですよな。

森: これまでも、自分らだけで山を乗り越えてきたんやないよな。他の人の力も借りて、山を乗り越えたら、いつのまにやら乗り越えられたなという感じやな。

岩丸: これからも、来る人拒まず。どういふ人が良いとか、ない。来たらわかるし、来てみなわからんね。

大南: どんな人に来て欲しいとか言うのは、グリーンバレーの流儀じゃない!